大阪フロイデニュース

Freude

vol. 13-11 2019.10.30.wed

譜よみたところ、アタマに入ってますか？

大阪フロイデ合唱団　Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ http://www.osakafreude.com
メールアドレス info@osakafreude.com

10/23の譜よみしたところ

女声

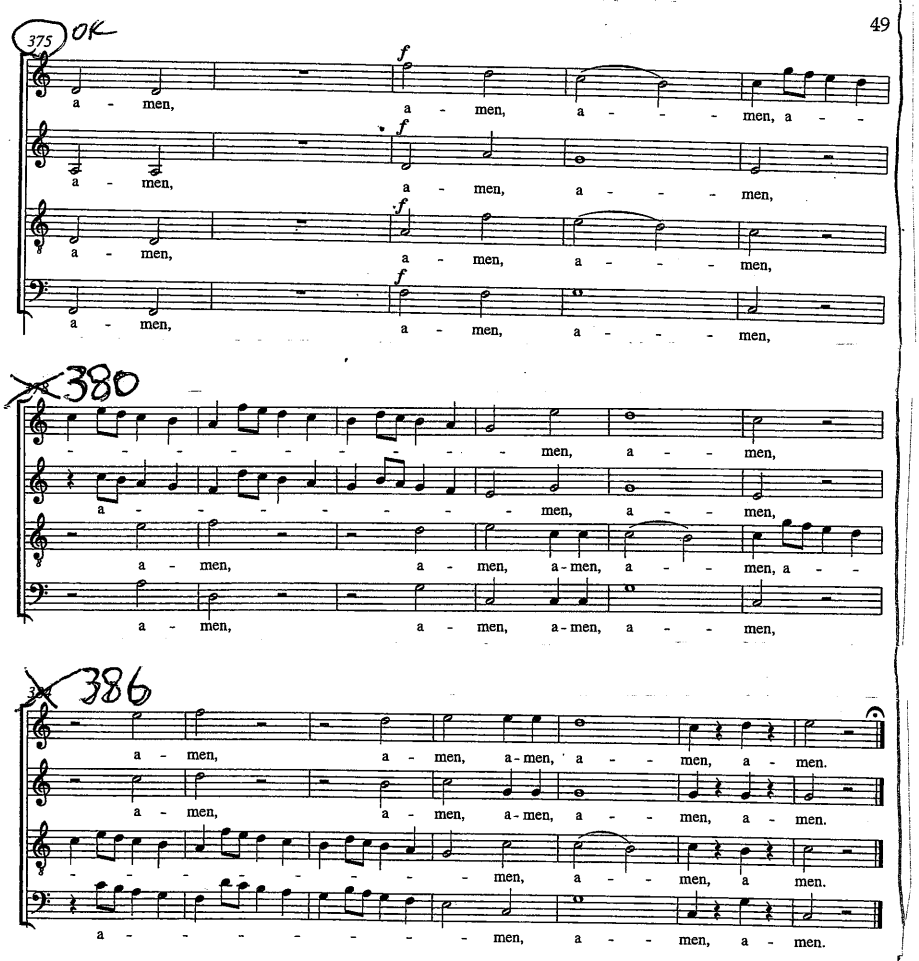
◎モーツァルト
Credo 終わり〜
☆256からのAllegroは合唱は強弱記号はありませんが「f」と思ってアマ〜

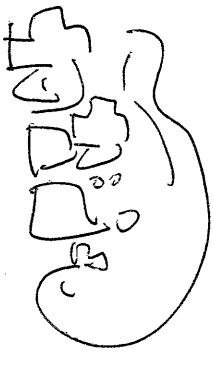
◎ハイドン Credo
138〜179よみました
（ちなみに10/9に137まで読み終えてます）

男声

◎ハイドン Credo の Gloria終わり
〜137まで読みました。
（ちなみに男声は10/9モーツァルトのCredoのさいごまでよんでます）

モーツァルト 49ページ 小節番号ミスプリです





11/3(日) 13:15〜 小田急SGC（JR尼崎）（分かれて練習）

（練習後パートで集まって、これまでの不明な点、確認します。各自チェックしておいてね）

11/6(水) 18:30〜 混じる アルテ

11/13(水) 18:30〜 混じる アルテ（分かれて）

11/20(水) 18:30〜 混じる アルテ（分かれて）

「ハイドンとモーツァルトのこと、知っておこう」（ネットつまみぐいゴメン）シリーズ　その1

モーツァルトのK167が作曲されたのは1773年（モーツァルト17歳）。前年にザルツブルク大司教にコロレドが就任し、イジワルな締め付けを音楽の美しさでもってはねのけようとしてる時期。ハイドン・ネルソンミサは1798年。30年務めたエステルハージ家を58歳で辞し、自由な年金生活者としてイギリスへの２回の演奏旅行を終えたのち、エステルハージ家に再就職（1796年）して２年（ハイドン66歳）というタイミングです。歴史的に見ると、２曲の間には、フランス革命がありました。まさに、おおきなうねりの中にある、この２曲。というわけで、ちょっと、２人のこと、知っておきましょう！（ズボラしてネットネタのつまみぐいです。ご容赦m(__)m）

まおは♪ムカシ音楽室にハイドン モーツァルト ベートーヴェンの肖像画があったことを思い出しつつ…

▶ヤマハ学校音楽教育支援サイト「音楽について勉強しよう」「音楽史について学ぶ」
「古典主義音楽の背景」より抜粋

古典派の音楽を代表するのは、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンという３人の作曲家です。

ハイドン（F. J. Haydn, 1732-1809）は1750年代に作曲活動を始め、その生涯は19世紀の初めまで続きました。モーツァルト（W. A. Mozart, 1756-91）は、神童の誉れ高く、一桁の年齢、つまり1760年代から作品を書き始めたものの、その生涯は短く、1791年に35歳の生涯を閉じています。ベートーヴェン（L. v. Beethoven, 1770-1827）は、その２人よりやや生年が遅く、19世紀の最初の四半世紀までその生涯を伸ばしますが、彼の没年時代には、すでにロマン主義の音楽が華やかに開始されていました。

古典派の開幕に先立ち、バロックから古典派への過渡的な時期が存在します。バロック時代は、社会的には絶対主義時代に重なりますが、18世紀末にはフランス革命を迎えるように、社会体制はもちろんのこと、人間の思想にも大きな変化がもたらされてきました。絶対主義体制下にあった人々も、科学の発達や思想の変化にしたがって、絶対主義に対して疑問を持ち始めていました。彼らは神や神への信仰の代りに、心のよりどころを人間の理想に求めようとしたのです。

しかし、だからといって、急に社会体制が変化したというわけではなく、音楽家の地位は依然として低く、宮廷ないしは教会に仕える一奉公人という立場に変りはありませんでした。当時の音楽家が宮廷楽長ないしは教会の合唱長という地位を欲しがったのも、それによって地位が安定し、収入を確保することができたからです。ハイドンが30年近くも務めたエステルハージ家の宮廷楽長という地位も、優遇はされていましたが、本質的には、その身分に変りはありませんでした。またモーツァルトが、後年ウィーンで独立せざるをえなかったのも、そうした安定した地位を得ようとして得られなかった結果の、余儀ない生活形態だったのです。しかし、その後ベートーヴェンやシューベルトの時代、つまり19世紀の最初の四半世紀時代になると、近代的な意味での自立する音楽家の姿を認めることができるようになります。それこそ、ロマン派時代の音楽家の姿といえるでしょう。

☆不定期連載します。次はもすこしハイドンとモーツァルトに寄った内容の予定